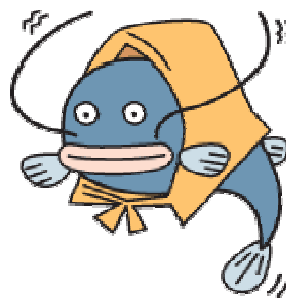


緊急地震速報 なまずきん

マンスリー レポート
2008年1月号



発行元 株式会社 ハレックス



推計震度分布図の発表 地震発生後おおよそ30分以内に ～ 平成20年1月16日12時より（気象庁）～

1. 概要

気象庁は、平成16年3月から、防災機関による効果的な応急対策の実施に資するよう推計震度分布図を作成し、地震発生後約1時間後を目途に緊急の報道発表等において提供しています。

推計震度分布図は、地震発生後速やかに提供することにより、広域に応急対策活動を行う利用者での活用等が期待されることから、下記のとおり、地震情報として推計震度分布図を迅速に発表することになりました。

2. 実施内容

1) 情報発表タイミング

「震源・震度に関する情報」の発表後を目途に推計震度分布図を速やかに発表します。

早い場合で地震発生後約10分程度、遅くとも

おおむね30分以内に発表します。

なお、追加の震度観測データを入手した場合、続報を発表することがあります。

2) 発表基準

全国いずれかの観測点で震度5弱以上を観測した時（これまでの推計震度分布図の提供の基準と変わりありません。）

3) 開始予定日時

平成20年1月16日12時から

3. その他

気象庁ホームページでは、「防災気象情報」の「地震情報」ページ経由で、上記の情報発表のタイミングで、掲載する予定（1月末目途）です。（気象庁資料）

推計震度分布図とは

気象庁や地方公共団体等の震度計で観測された各地の震度データを元に1kmメッシュ毎の震度を推計したものです。

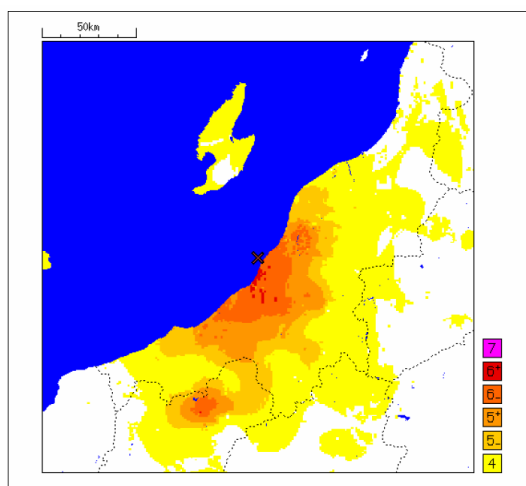
推計震度分布図は、個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な拡がり具合とその形状に着目して利用することについて留意が必要なことから、提供とともに解説を行い、利用者の理解に努めています。

【右図の解説】

越後平野と長野県北部の一部に震度6弱以上の地域が広がっています。中越地方沿岸地域などでは震度6強の地域がみられます。これらの地域では被害の確認と、今後の余震による被害拡大への注意が必要です。

2007年7月16日10時13分頃の新潟県上中越沖の地

(M6.8 深さ17km:暫定値)の推計震度分布図



なまずきんの働き (2007年12月)

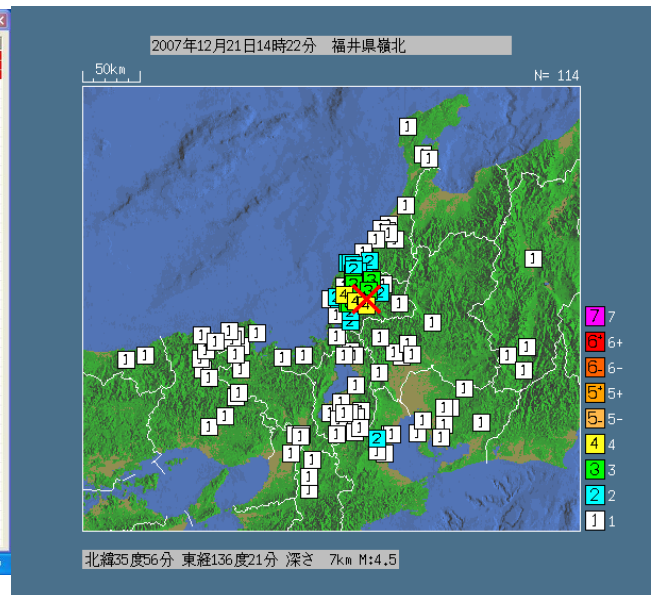
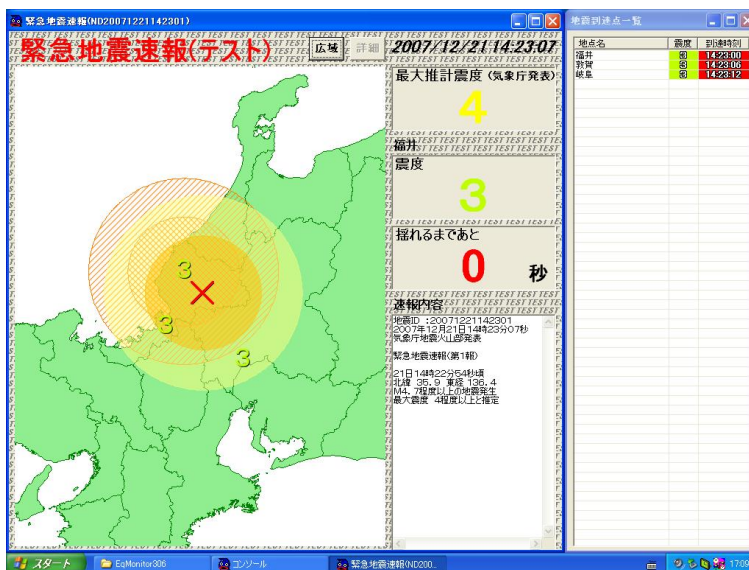
【発信数概要】

緊急地震速報(速報)が39個の地震に対し発信され、総数は282通でした。昨年8月に先行運用が始まってからの月平均データと比較しますと、地震数は60%程度、発信数は80%程度と、共に少なめでした。

また、推定震度4以上と報じた地震数は3個と前月に引き続き少なめでした。

【福井県嶺北地方の地震】

21日14時22分54.5秒、福井県嶺北にM4.5の地震が発生し、緊急地震速報が第9報まで発信されました。最も近い観測点で地震波が検知されたのは地震発生約7秒後で、第1報はその約9秒後に発表されましたが、福井県周辺で震度2以上となった地域には、間に合いませんでした。



“なまずきん”の表示画面

福井市などの震度は3と推定され、福井市ではすでに主要動が到達することを示している。

震源を中心とした二つの円は、外側がP波の、内側がS波の伝播の様子を、また、福井市を中心とした二つの円は、P波、S波の距離限界を表すもので、この円内に発生する地震については、緊急地震速報が間に合わないことを表している。

福井県嶺北の地震の震度分布図(気象庁より)

震度4以上を発信または観測した地震(2007年12月)

| 日 | 時分 | 地域名 | 深さ(km) | マグニチュード | 速報発信数 | 速報最大震度(最終報震度) | 観測最大震度(地点数) |
|----|-------|---------|--------|---------|-------|---------------|-------------|
| 19 | 09:03 | 福井県嶺北地方 | 7 | M4.5 | 9 | 4(4) | 4(3) |
| 22 | 19:39 | 福島県会津 | 5 | M4.4 | 7 | 4(3) | 3(3) |
| 24 | 19:39 | 栃木県北部 | 8 | M3.6 | 8 | 4(4) | 4(1) |

2月の被害地震

| 発生日 | 発生年 | 北緯(度) | 東経(度) | M | 地震名または震央地名 | 死者数 | 最大震度 |
|-----|--------------|-------|-------|-----|------------|-----|------|
| 10日 | 昭和20年(1945年) | 41.0 | 142.1 | 7.1 | 青森県東方沖 | 3 | 5** |
| 27日 | 昭和36年(1961年) | 31.6 | 131.9 | 7.0 | 日向灘地震 | 7 | 5* |

明治以降に死者・行方不明者を出した地震・津波および気象庁が命名した地震

最大震度は、0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7の10階級。【平成8年(1996年以降)】

ただし、* 0から7の8階級

【昭和24年(1949年)～平成8年(1966年)】

** 0から6の7階級

【明治31年(1898年)～昭和23年(1948年)】

*** 微、弱、強、烈の4段階

【明治17年(1884年)～明治30年(1907年)】で、それぞれ現在の震度の1、2～3、4、5以上に相当

過去130年余のうちに起きた人的被害のあった地震の月別発生平均回数は、約6回ですが、2月

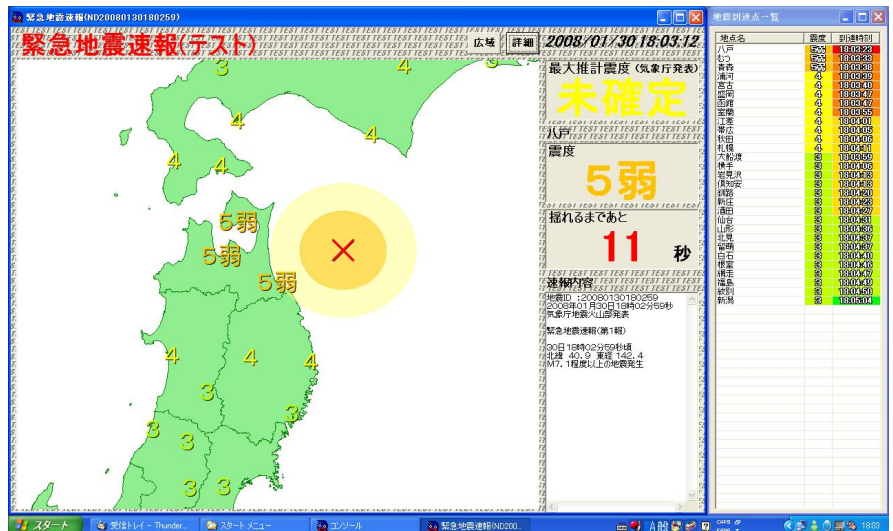
は平均回数の3分の1の2回しかありません。なお、最も多いのは3月の13回です。

2月に発生した2つの地震の模様を“なまずきん”でシミュレーションしてみました。

1. 青森県東方沖の地震

当時は、八戸で震度5を観測していますが、“なまずきん”では、八戸のほか、むつ、青森でも震度5弱となることが示されています。

震源は70～80km東方の海域のため、主要動が到達するまでには20秒程度の余裕があるようです。



2. 日向灘地震

当時は、宮崎、油津、延岡で震度5を観測しましたが、“なまずきん”では、宮崎県のほかに大分県や鹿児島県の一部でも震度5弱ないしは震度5強となることが示されています。

日向灘地震の震源も海域ですが、沿岸までの距離が20～30km程度ですので、主要動は10数秒で到達してしまいます。

